宿利理事長
開会挨拶全文

　皆様、おはようございます。国際高速鉄道協会の宿利でございます。
　本日は、ご多忙中の中「ＩＨＲＡ国際フォーラム２０１６」にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

　本日のフォーラムには、国内外から２１か国、約２８０名の皆さまにお集まりいただくことになっております。また、本日は、国会審議中で本日午後１時からの衆議院本会議に出席される石井国土交通大臣に、大変厳しい日程の合間をぬって、このフォーラムにご出席いただいております。
　ご出席いただきました皆さまに対しまして、主催者を代表して心から御礼申し上げます。

　第１回の国際フォーラムは、２年前の２０１４年１０月に、東京で開催いたしました。新幹線が開業して５０周年という記念の年でありましたが、ここでは「新幹線システムの発展の軌跡」を振り返り、「世界の高速鉄道プロジェクトの課題と将来展望」について議論していただき、そして「飛躍する高速鉄道」の姿を模索いたしました。

　この会議において、私は、ご出席いただいた皆さまと、大きく２つのことについて認識を共有できたのではないかと考えております。

　１つは、半世紀前に日本で誕生した「新幹線」が、当時、自動車と航空の急速な発展の前に、幹線交通としては陳腐化しつつあった世界の鉄道に対して、「高速鉄道」という新たな活路を切り拓き、その後、高速鉄道の整備が世界の潮流となり、まさに「ゲームチェンジャー」となったということです。

２つ目は、「新幹線」が、単に高速の輸送システムであることを超えて、経済や社会、人々のライフスタイルに変革をもたらし、国や地域を大きく創り変える力を備えた社会システムであり、まさに「トランスフォーメーション」であるということです。

今回のフォーラムは、２年前の第１回のフォーラムの議論を更に先に進めて、『高速鉄道が創り出す社会、そしてその未来』について、ご出席の皆様と一緒に議論をする機会にしたいと思っております。

高速鉄道が有する社会変革の大きなポテンシャルを真に活かすためには、それぞれの国や地域におきまして、長期間にわたって、様々な課題を克服し続けていかなければならないことは、言うまでもありません。

日本でも台湾でも、また高速鉄道を導入している世界の他の国々でも、様々な課題を克服すべく挑戦を続けてきました。その挑戦の結果が現在の姿であり、さらに未来に向かってその挑戦が続きます。

本日のフォーラムでは、５つのセッションに、これ以上は考えられない、大変素晴らしい顔ぶれのパネリスト、モデレーターの皆さまにご出席いただいております。

本日の「真に高速鉄道を活かすための課題とその克服への挑戦」をテーマとする議論を通じて、世界の高速鉄道において蓄積された経験や知見が、お集まりの皆さまの間で共有され、「高速鉄道が創り出す社会、そしてその未来」について考察する有意義な場になれば幸いに思います。

主催者を代表いたしまして、ご挨拶といたします。